

平成24年度第1回さぬき市男女共同参画推進協議会 会議要旨

- 1 日 時 平成24年5月17日(木) 13時30分～15時45分
- 2 場 所 さぬき市役所3階302会議室
- 3 出席者 【委員】井上委員 岩田委員 柿木委員 亀井委員 高橋委員
筒井委員 長安委員 夏田委員 南田委員 宮本委員
【事務局】副市長、総務部長、総務部政策課 政策課長外2名
【傍聴】0名
- 4 会議次第
1 開会
2 委嘱状交付
3 副市長あいさつ
4 議題
(1) 会長・副会長の選任について
(2) さぬき市の男女共同参画推進に向けた取組について
(3) 平成24年度事業スケジュール(案)について
(4) 次期プラン策定のためのアンケート調査(案)について
(5) 市民企画事業の実施(案)について
(6) 男女共同参画週間パネル展(案)について
(7) 今後の会議スケジュールについて
5 その他
6 閉会
- 5 配布資料
資料1 男女共同参画の推進に関する取組み(平成23年度)
資料2 平成24年度男女共同参画推進活動事業内容及びスケジュール(案)
資料3 - 男女共同参画に関するアンケート実施要領(案)
資料3 - 次期プランアンケート設問項目、調査票(案)
資料4 - 平成24年度市民企画事業募集要項
資料4 - 市民企画事業チラシ、提案書、報告書
資料5 平成24年度男女共同参画週間パネル展 展示物一覧(予定)

6 会議内容

発言者	意見概要
	< 開 会 > (13 : 30)
課長	ただ今から平成24年度第1回さぬき市男女共同参画推進協議会を開会する。 まず、委員の皆様へ委嘱状を交付する。委員の皆様には、その場に御起立いただきたい。
副市長	< 委嘱状交付 >
課長	開会にあたり渡邊副市長からあいさつを申し上げる。
副市長	近年、社会情勢が急速に変化していく中で、人々の暮らしの中にも様々な変化が生

	<p>じている。この変化に対応し、柔軟で持続可能な社会を築くためには、あらゆる場面で、男女が共に個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を実現することが重要だと考える。このことについては社会全体で推進していくことが必要だが、委員の皆様の新たな視点からの取組・推進が最重要だと思うので、御協力をよろしくお願ひしたい。</p>
	<p>< 副市長退席 ></p>
課長	<p>この後、会長が決まるまで司会を務めさせていただく。 まず、この会議は原則公開となっているため、協議会の傍聴要領に従い13時より受付をしている。現在のところ傍聴希望者はいないが、この後傍聴希望があれば、その際には入室いただくので御了承いただきたい。 議題に入る前に、今回初顔合わせの委員もいるため、まず各委員に自己紹介をお願いしたい。</p>
各委員	<p>< 自己紹介 ></p>
課長	<p>続いて事務局職員を紹介する。</p>
	<p>< 事務局紹介 ></p>
課長	<p>では、議題に入る。まず会長・副会長の選任をしたい。互選で決めたいと思うので、どなたか発言をお願いする。</p>
委員	<p>香川大学から来られた長安委員にぜひ会長をお願いしたい。</p>
課長	<p>他に意見はないか。 意見がなければ、長安委員に今回の会長をお願いすることになるが、賛同者は拍手いただきたい。</p>
委員	<p>< 選任確認 全員拍手 ></p>
課長	<p>それでは会長を長安委員にお願いする。続いて副会長の選任についてどなたか発言をお願いする。</p>
委員	<p>筒井委員を推薦する。</p>
課長	<p>筒井委員に副会長をという御意見があったが、他に意見はないか。意見がなければ副会長は筒井委員にお願いすることになるが、賛同者は拍手いただきたい。</p>
委員	<p>< 選任確認 全員拍手 ></p>
課長	<p>それでは、新しい会長は長安委員に、副会長は筒井委員にお願いする。では、会長・副会長には席を移動していただき、進行の打ち合わせをさせていただく。5分ほど休憩とする。</p>
	<p>< 移動・休憩 ></p>
課長	<p>それでは、新しい会長と副会長に就任のあいさつをお願いする。</p>

会長	<p>力不足ではと思いながら、人生の先輩方がたくさんいらっしゃる中で、さぬき市のことがよくわからないまま会長職を引き受けてもよいものか、まだ悩んでいる。</p> <p>しかし、外から来た私だから新しい「市」というものが見えることもあると思う。</p> <p>今、大学生と話をしていると、これからの社会の担い手である学生に対する教育の重要性を感じている。男女共同参画社会について講義をしていても、後2～3年で社会に出ていくはずの学生でさえ、男女共同参画社会は遠いことだと思っているようだ。男女共同参画社会は、自分の生活から遠いところにあるものだと捉えられがちだが、本当は一人ひとりの暮らしや悩みに直結したものだ。</p> <p>今季、男女共同参画の次期プランを策定していくことになるが、市民にとって身近で分かりやすく、元気の出るプランにしていきたいと思うので、皆さんの活発な御意見をお願いしたい。</p>
副会長	<p>少し前に、今は皆が普通に取得している産休、育休はこれまでの人たちが一生懸命活動して、声を挙げてきたおかげで取得できているという話を聞いたことがある。結局、住みよい社会を作っていくのは、その結果へもって行くまで声をあげる人間、地道に活動する人間が必要なのだな、と思ったときに、男女共同参画の活動が少し分かったような気がした。あまり大した力はないが、頑張っていきたいと思う。</p>
課長	<p>これより、会長に議事進行をお願いする。</p>
会長	<p>はじめに、本日の会議について、概ね終了時間を16時としたいと思う。皆さんには御協力をお願いする。</p> <p>では、議題(2)「さぬき市の男女共同参画推進に向けた取組について」に移る。事務局に説明をお願いする。</p>
事務局	<p>< 議題(2) 説明 > 男女共同参画推進に向けた取組、男女共同参画プラン、男女共同参画推進条例について説明(資料1)</p>
会長	<p>平成23年度は、男性、若い世代など対象を広げた活動ができたのではないかとと思う。今年度から次期プラン策定準備作業が始まるので、委員の皆様には、今後も積極的な御提言をお願いしたいと思う。</p> <p>議題(2)について何か質問はあるか。</p>
委員	<p>< 質問なし ></p>
会長	<p>続いて、議題(3)「平成24年度事業スケジュール(案)について」、事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p>< 議題(3) 説明 > 平成24年度事業スケジュール(案)について説明(資料2)</p>
会長	<p>かなり先までの計画であるので、多少のずれは生じると思うが、事務局から説明のあった平成24年度事業スケジュール(案)について、何か質問はあるか。</p>
委員	<p>< 質問なし ></p>
会長	<p>異議がなければ、今後このスケジュールで進めさせていただく。</p>

事務局	<p>それでは、議題（４）「次期プラン策定のためのアンケート調査（案）について」に移る。事務局から説明をお願いします。</p> <p><議題（４）説明> 次期プランアンケートの実施要領、調査票設問事項について説明（資料３ - 、 3 - ）</p>
会長	<p>アンケートについて、皆さん色々と質問等あるかと思う。しっかりと反映していきたいので、皆さんの御意見を頂戴したい。</p>
委員	<p>アンケートの設問内容にデートDVがあるが、中学生にデートDVについて聞くことに違和感がある。実態として最近では中学生のデートDVがあるのか。中学生で交際しているということ自体がそんなにない中で、さらにDVとなると、聞くのはいいが、アンケートとして有効なデータが挙がってくるのか疑問だ。</p>
委員	<p>私もこれを見て「えっ」と思った。特に問6 - 2で、“あなたは、次のようなデートDVをしたりされたり、見たり聞いたりしたことはありますか”とある。その回答項目の中で、“メールのチェックや友達づきあいを制限する”とあるが、現在、中学生には携帯電話を持たせないことになっている。また、“デート費用やお金を無理やり出させる”などは大人の世界で、中学2年生に対しては過激ではないか。</p> <p>このアンケートを実施するには、生徒に対する事前の指導が必要になるのではないか。「デートDV」という言葉がどのようなものなのか、ということもまだほとんどの子どもは知らないのではないか。その前に、「DV」という言葉さえ知らないのではないかと思う。</p> <p>園長校長研修会で調査の依頼をするとあるが、校長先生方に一番疑問視されるのはここではないか。</p>
会長	<p>他の自治体で、デートDV関係の調査をしているところはあるか。</p>
事務局	<p>他市でも実施しているところはある。今回のアンケートを作成するにあたり、横浜市で高校生を対象に実施したアンケートを参考にしたので、設問が少し大人びているところがあるかもしれない。“デートDVという言葉を知っていますか”という設問など、若くてまだ認識のないときから「そういうことがあるんだ」と知ってもらえたらと思い、項目に入れさせていただいた。</p>
委員	<p>設問に対する回答として、私が子どもと接している感じでは、ほとんどの者は“知らなかった”と答えるだろう。そうなると、次の設問に進む際にデートDVとは何かについて、かなり説明をしないといけない。そして“あなたは今までに交際したことがありますか”という設問についてだが、「誰それが好き」「誰それがいいな」という思いはあっても、さぬき市は田舎であるし、2人で一緒にデートをするというのはほとんどない。私にとっては、内容がまだ中学生には早いのではないかという気がする。</p>
委員	<p>このアンケートは内容を訂正する考えはないのか。と言うのは、先ほど他の委員が言われたように、現場で毎日生活している人の考えというのは非常に貴重だと思う。</p> <p>今後、アンケートを実施していく上で、現場と計画を立てる側との考えのズレはどこかで必ずあり、まさに今出てきている。それをどこで修正していくか。やはり現場の状況がよく把握できている状態で、効果的に実施するのが望ましい。そうすると、できたらこの場でこれらの項目について検討してみるというのはどうか。</p>

会長	デートDVについて、日頃から取組をされている委員からも、少し情報提供をしていただけたらと思うがいかがか。
委員	<p>20年前に私が他県にいるとき、住まいが中学校の真裏だった。その時代にも、校舎の裏では中学生の不純異性交遊があった。また15年以上前に、さぬき市内のある中学校の体育館の隅に使用済みの避妊具が捨ててあったと、他の保護者に聞いたことがある。その中学生が使用したかどうかはわからないので何ともいえないが、ただそういった事実があった。</p> <p>また、小中学校で、「子ども同士の付き合い方やコミュニケーションの取り方」というテーマで出前講座を行ったことがある。その講座の中で、本当に一部の子どもではあるが、デートDVの可能性があり、それを正しいと思っている子どもの存在が見受けられた。デートDVはさぬき市が田舎だから無い、というのではないと思う。DVは家庭環境からも出てくるものであるから、子どもだからそれは無い、というのをおかしいのではないか。</p> <p>さぬき市内にも確実にその種はあるので、できればそれが正しいと思わずにストップがかけられる、子どもたちが興味を持ち始めた時期に先生方からも正しい知識を入れることができれば、少しでもDVを防ぐことができるのではないかと思う。</p> <p>正しい知識を誰が入れるか、というのが問題で、家庭でその知識を得られない子ども達にとっては学校で得るしかない。中学2年生というのはそういうことに一番興味がある時期なので、ちょうどよい機会ではないか。</p> <p>現在は成人している私の子どもについても、中学生のときに異性と交際していたことを何年か後になって知った。その交際がどの程度のものかは分からないが、「お付き合い」という形をとり「交際」という言葉を使っていたと思われる。子どもだから異性との付き合いはない、という発想は危険ではないか。</p>
委員	<p>事実、交際自体をしている子どもはいる。交際が全くないとは言っていない。しかし、100人当たり的人数にしたらどれくらいの割合か。例えば交際経験者が全体の20%だとすると、残りの80%の子ども達にとっては、デートDVに関する項目は大変過激である。</p>
委員	<p>しかし、一部のマンガ等、実生活で彼らが接している状況はそんなに純粋な環境ではないのではないか。</p>
委員	<p>中学2年生に適しているかどうかの問題だ。</p>
委員	<p>中学2年生が今持っている情報はそんなに子どもっぽい情報だろうか。また、携帯電話は生徒に持たさないとなっているとのことだが、市外のある中学生が変質者の被害に遭った際、警察の指導が、「子どもに携帯電話を持たせてほしい。携帯電話を持っていることによって、そういった被害から逃れられることがある」というものだったそう。そういったことで、学校には言っていないかもしれないが親が子どもに携帯電話を持たせているという現実はあると思うので、もう少し特殊なことではないという感覚を持っていただきたい。</p>
委員	<p>自分の中学生時代を振り返ってみると、いつの時代にも性的に早熟な学生というのはいらる。ドメスティック・バイオレンスという言葉は聞いたことがあったが、今回、デートDVという言葉は初めて聞いた。これは結婚していないが交際の時にすでに暴力的、という意味でよい。性的に早熟な学生というのはいらる。また過激なマンガを読んでいる者もいる。しかし実際にデートDVをしている中学生がいるのだろうか。</p>

委員	<p>そこで泥臭い説明をしないといけないというのは逆にデメリットではないか。</p> <p>性的な部分が引っかかるのか。</p>
委員	<p>性的な部分ではない。それは中学生なら当然みんな知っていると思う。ただDVの考え方からすると、暴力的に「俺と付き合え」などと無理強いをするのがデートDVではないか。性的に早熟というのとは意味合いが違う。デートDVというときに、すごく汚い部分を子どもに説明するというのは、実際にデートDVがあったとしてそれに救いの手を差し伸べるとい意味ではいいのかもしれないが、アンケートの趣旨としては適さないのではないか。</p> <p>デートDVをされたらどうするかを聞くということは、生徒の理解度を把握することで現状が危機的だから救いの手を差し伸べないといけない、という次のステップにつながると思うのだが、自分が教師で子どもにデートDVということの説明するとき、大人の嫌な汚い部分を大半の純粋な子どもに教えるのはどうかと思う。</p>
会長	<p>女子高校生の7人に1人程度がデートDVの被害に遭っているというデータがある。とても早熟な子ども達は危険な状況にさらされているといわれている。予防・啓発に関しては中学2年生位が適当とされていて、その年代から予防・啓発の学習を積んでいくことでその能力を選ばない関係、安全な恋愛関係を作れるといわれている。他県の話だが、岡山県ではデートDVに関するリーフレットを平成18年から全中学生の保護者向けに配布した。</p> <p>今、人権教育の視点からデートDVが取り上げられている。先日、人権擁護委員の研修でデートDVの研修をさせてもらった。人権擁護委員の方は、人権教育としてデートDVを中学校に出前授業に行きたいと熱心におっしゃっている。もしアンケート実施のフォローが必要であるとか、事前に何か時間を取らなくてはならない場合は、そういったことにも使えるかもしれない。</p> <p>事務局への質問だが、このDVに関する設問は問5から始まっており“一緒に暮らしていない恋人同士の間で起こる体、言葉、態度による暴力のことをデートDVといいます。”とあり、一応ここで説明をしている。そして“あなたはこの言葉を知っていましたか。”と続く。調査の意味合いもあると思うが、啓発的な意味合いも含めていと私は理解したのだが、詳しい説明をしてもらいたい。</p>
事務局	<p>その設問を考える際、実際に誰かと交際をはじめたときに、「嫌われたくない」という一心で自分が我慢すればよい、という間違えたままの感覚を持っていると、「私が我慢すれば、私が我慢すれば…」と、どんどんデートDVに発展していってしまうのではないかと思った。そういったことは相談していいんだよ、ということを実際に誰かと交際をする前の子ども達にも知識として知っておいてもらいたい、という気持ちを込めて中学生にも質問したいと思った。</p> <p>設問の内容で、中学生には過激すぎると思われる内容はなるべく削除したつもりだが、もう少し削るとしたら内容を啓発の部分だけに絞って、“実際にデートDVをされたらどうしますか”というような質問にすることも可能かと思う。ただ、子ども達がこれから大きくなってこれから誰かと交際する前に、DVの存在を知っていたら自分自身でも防ぐことができるのではないか、という気持ちもあり設問に入れさせていただいた。</p>
会長	<p>他の委員の意見はどうか。</p>
委員	<p>今のさぬき市内における中学校の教育カリキュラムの中でこういったものはどう</p>

	<p>いう風になっているのか。実情はどうなっているのか。</p>
委員	<p>デートDVについてはない。</p>
委員	<p>先ほど会長からも話があったように、他県ではパンフレットを配っているようなところもある。では、なぜさぬき市はそのようなことをしていないのか。</p>
課長	<p>パンフレット等は、生徒向けではなく、保護者向けに配られている、とお聞きしたが。</p>
会長	<p>教育委員会と人権のマトリックスの中で配られた。</p>
委員	<p>さぬき市ではこのようなアンケートを取った時にまったく土壌がなくびっくりしてしまうのではないかと、という懸念があるとのことだが、実態として、子ども達はみんな知っていると思う。しかし、さぬき市の教育委員会において中学校ではまだそういったことは教えない、という教育方針でやっている、保護者は半分気が付きながら、教えない方針なんだと思っているという状態ならば、そこにこのような形でデートDVのアンケートを取るとなると、さぬき市の教育の在り方とアンケート内容がかけ離れているのではないかと、ということになりかねない。その辺のところをしっかりと押さえた上で実施する必要がある。</p>
委員	<p>このアンケートは横浜市で高校生対象に実施されたものがベースになっているのか。</p>
事務局	<p>お見込みのとおりである。そのアンケートの中で、高校生に質問しているものを中学生向けに“性的嫌がらせをしている”など適切でないと思われるものを削除して作っている。“デートDVという言葉を知っていましたか”という内容など、啓発になるものは中学生向けに言葉を優しくして残している。</p>
委員	<p>いじめなどのように、嫌なことをされたら先生に相談しましょう、という話なら「DV、デートDV」という難しい言葉を使わなくてもよいのではないかと。わざわざDVという言葉で啓発は必要なのか。</p>
委員	<p>いじめとデートDVは同じようなことだという御意見だと思う。確かにいじめもデートDVも根源は人権を無視した行為ということではつながると思うが、デートDVは男性と女性の付き合いの中で生まれる上下関係から起こるドメスティック・バイオレンスである。これについては、中学生の頃からなんらかの形で言葉を理解したり、その事象を理解しておくことが大事だと思う。というのは、他の委員からも話があったが、中学生への出前講座の時に、中学生の間では例えば交際相手の携帯電話のメールをチェックすることや交際相手以外の相手と遊ぶことを禁止することが当たり前のように受け止められているところがある。それは人権を尊重しない行為だということを、一般社会人となって人と交際する際の知識として知っておくことは重要ではないか。今中学生がどういう状況かを知ることも大事だが、DV・デートDVについて知らない生徒に対しても、男性と女性が付き合う時に大事に守られなければならないことを知る手がかりとしては非常に重要なアンケートだと思う。</p> <p>意見をまとめると、アンケートの趣旨として啓発といった意味ではよいが、あまり聞きすぎると生徒にも教えていないのに刺激が強すぎる、ということになると思う。</p>

事務局	「この質問はよい」が「ここまで聞かなくてもよい」といったようなアンケートの設問内容について、意見をお伺いしたい。
委員	現場で毎日生徒と接している立場の者と距離を置いて時々見るといった者の考えを今出し合っている。私が思うに、学校には一斉指導と個別指導というものがある。一斉指導でやるものと、その状況を踏まえて個別指導で指導していくものはある程度学校に任せることから出発してはどうか。
委員	<p>生徒に対してこのアンケートを実施するのはよいが、アンケート結果が出てその後どうするか、ということが問題だ。学校としては、どのくらいの生徒にデートDVの経験があったかを知るだけではいけない。問題を処理していかないといけない。また、アンケートを実施したとして、男女共同参画に理解のある保護者がいる一方、そうでない保護者もいる。保護者の受け止め方も様々で、なぜ学校はこんなアンケートを実施したのか、といった質問も出てくると思われる。先ほど、他の委員がおっしゃったような説明をした場合、保護者に対しては非常に過激で辛いものになってしまう。</p> <p>性教育の中でも男女の関わり等は段階的に教えていっている。その中で、段階を踏み、出前講座等も受けた上で、このアンケートを取るといった筋道があるならば、理解できるが、アンケートありきで実施されると現場は混乱する。</p> <p>もしアンケートを実施するのであれば、今回ではなく、計画的に学校が教えていってからの実施としてはどうか。</p>
委員	今までの議論を聞いていると、アンケートの話とデートDVをどう考えるか、といった話が混在している。そもそもアンケートの目的は何か。
課長	当然のことながら男女共同参画の目的の中にDVの根絶がある。これは高い年齢層から若年層まで、現実にそのような状況があるか否か調査することを目的としてこの設問とした。一方で、学校現場において混乱をきたすようなことがあってはいけない。具体的にアンケート上のどの質問が適切でないか、というような御意見をいただき、具体的に検討していくというのはどうか。
会長	<p>問6 - 2などはデートDVを見たり聞いたりしたことがあるか、を問うことが主であると思う。もしかしたら一部の生徒が被害にあっているかもしれない、と知ったときにどう対処しているのかを知ることは重要である。</p> <p>この質問の順番や聞き方に配慮しながら実施する方法もあると思う。</p>
委員	そうすると中学2年生にデートDVについて知っておいてほしい、ということが男女共同参画の目指すところか。
委員	アンケートを通して、デートDVを知ってくれということが目的なのか。
委員	「アンケートをしてデートDVを知らない者がいるとわかった。だからもっと子どもに教えなければ」となるのであれば、目指すところは全員がデートDV知っているということではないか。
会長	デートDVはあってはならないものなのだ、ということを知ってほしいということだ。
委員	当協議会としては、中学2年生が全員デートDVを知っていて、「デートDVはい

	けないことだ」と認識できていることが理想になるのか。
委員	私はアンケートに啓発の意味があるということがあまり理解できない。逆に言うと啓発の意味があるとしたら危険ではないか。ちゃんと教えないといけないのに「デートDV」という言葉だけが出て、妙な情報が入る恐れがある。
委員	啓発はやはりパンフレットや講演会などで行うべきだと思う。
会長	しかし、今現実にデートDVがあるのかないのか、本当に起こっているのは一部なのかを知る意味はある。
委員	会長の意見の前提として、デートDVの被害にあっている人がどれくらいいるのかを調査したいというのがあると思う。それについてみんな賛成ならば、後はどういった調査方法にするかということになる。デートDVの被害にあっている人がどのくらいいるのか知るべきだ、ということか。
会長	実態を知るべきだと思う。
委員	例えば実態を知る方法としてアンケートをすると、1人が被害にあっていたとして、それを10人が知っていれば、結果は10となる。そうすればこの結果自体が疑問になる。
委員	それは調査方法の話であり、調査方法がアバウトであればアバウトな結果が生まれるということ。その前に、まず実態としてデートDVの被害にあっている者がどれくらいいるのかを知るべきなのか知るべきでないのか、ということが聞きたい。
委員	人権に関わる調査やいじめ・悩み相談など、年間に何回も学校で行っている。今回、デートDVだけについて、中学2年生に対し取り上げるというのは疑問だ。学校で他の調査が全くされていないのであれば、考えてもよいと思うが、実際にどの学校でも学期に1回くらいは必ず調査をしており、そのときには誰がいじめられているか、というようなところまで書いている。
会長	本来の趣旨に戻るが、今回はプラン策定のためのアンケートである。プランの中にさぬき市が何を大切にしながら男女共同参画を進めていくのかを盛り込むためのものだ。そして、今御意見があったのは、啓発やパンフレット作成の是非を考えるためにもこの調査をするか否か、ということだと思われる。それを含めて今回のアンケートでデートDVについて触れるか触れないかについて、挙手で意見をお伺いしたい。
事務局	今、中学生アンケートにスポットが当てられているが、教職員対象のアンケートの中にも“生徒からデートDVの相談を受けたことがありますか”という設問を入れている。デートDVについては、県も誰もが手に取れるパンフレットの中で周知をしている。国からもDV防止基本法に基づいて各市町においても計画的にDV・デートDVの根絶にむけて動くように指示が出ている。国の指示があるから作成するという訳ではないが、デートDVという言葉が今後ますます出てくる中で今回私たちが取るアンケートというものは、5年に1回しか取れない貴重な機会だ。このアンケートの設問を通して中学生にデートDVとはこういったものだ、ということを知ってもらうという意味もある。しかし確かに保護者がこのアンケートを見た時に「なんでこんなものをしているのだ」と思われかねない。私たちの取組として男女共同参画とデート

	<p>DVのつながりがあまり明確に書かれていなかった、というところは反省点である。この協議会の中でもこれだけの疑問が出てくるということは、説明文が特に足りなかったと反省している。教職員用のアンケートにもデートDVの設問があり、中学校でデートDVという言葉を使うな、というのであれば両方削除となるのか、それとも教職員は個別に対応している部分もあるので教職員用のアンケートの設問の中には残すのか。ただ生徒用にはまだ早いので、詳しく説明を入れたとしてもやはり見せるものではない、という御意見が多いのであれば、時期尚早ということで設問を削除させていただく。</p> <p>ただ、私たちが目指すのは、デートDVのない男女共同参画社会である。もしこのアンケートで被害にあったことがあるというような結果が少しでも出れば、今後そのようなことが増えないように、減るようにということを目的として啓発活動に取り組んでいく。毎年、この協議会では学校現場に入り男女共同参画についての出前講座をもっとするべきだと言われてきた。そのテーマとしてデートDVを取り上げて出前講座をしていくということも今後の取組の中で考えていけると思う。そういった趣旨で、今回あえてアンケートの中にデートDVを入れたことを考慮していただきたい。</p>
委員	つまりは、デートDVの芽があるかどうかをはっきりさせたい、ということか。
事務局	お見込みのとおりである。ここで出すことが適当であるかは分からないが、同和問題の教育において、あえて言葉を出さなくてもよいのではないかと、余計に広げるだけではないかという意見をよく聞くが、そういうものは悪いものだ、それはこういった歴史があった、というところまで深く教育していくという取組が人権教育の中で大事だと思っている。私達もデートDVという言葉をあえて隠すのではなく、表に出しながらこれは人権の問題だということを踏まえながら男女共同参画を広めていきたいと考えている。
委員	子どもの立場でいうと、アンケートで「被害を受けた」と書いたにも関わらず、学校側にアンケート結果が行かずに誰もアクションを起こしてくれない。また学校側も例えば被害を受けている生徒がたくさんいたという結果が出たとして、それがどこの中学校の生徒か分からない、というのでは納得できないのではないかと。
事務局	御意見として、学校別にアンケート結果をフィードバックし、市民にはすべてを網羅した結果を出すようにしたらどうか、ということであれば、そのように善処させていただく。
委員	学校側も聞いたからには聞いた責任が発生する。
委員	次のアンケートは5年後になるのか。この内容を盛り込むのが5年後では遅いかもしれない。中学校では年間に様々な調査している、ということだったので、アンケートは時期が来たら行うというのでよいのではないかと考えていた。5年後にしかできないということであれば、今盛り込むしかないのではないかと。
事務局	プランは10年間になっており、途中5年で見直しをする。その際、アンケートを大規模に行うようになっていく。今回はデートDVのことで特に内容が濃くなっている。毎年中学2年生はメンバーが変わっていくので、今の中学2年生の理解度と5年後の中学2年生の理解度がどう変化しているのか、その間には国も市町も啓発活動を進めていくので、市として対象の認識が増えている等の流れは見えると思う。5年が長いのか短いのかは捉え方が様々だと思うが、流れが見えるのが大体5年くらいだと考え

	<p>ている。</p> <p>もう少し頻繁にアンケートを行うとなると、学校現場にかなり負担がかかってくるので、こちらだけでは毎年アンケートを行う等は決められない。</p>
会長	<p>特に中学校などは100%に近い形で返ってくると思うので、貴重な調査だと思う。</p> <p>まずは教職員用アンケートの内容に関して、皆さんの御意見はどうか。教職員用アンケートについては、概ねこの内容で実施してもよいという方は挙手をお願いします。</p>
委員	<p>< 挙手多数 ></p>
会長	<p>御賛同いただけたということで教職員用に関してはこの内容で実施する。</p> <p>では、書き方も含めて変更するかもしれないが、ひとまず中学生用アンケートの中にデートDVの項目を入れることに関しての同意・不同意を挙手で図りたいが、いかがか。</p>
委員	<p>先ほどから意見を聞いてきて、市としてはこのアンケート結果をもとに啓発活動に取組みたいとのことだが、やはり学校側としてはこのアンケートが出ると本当に大変だと思う。</p> <p>最初に他委員から意見があったが、現場の声を取り入れたアンケートにしないと現場を苦しめることになるのではないか。現場で生かせるアンケートならばよいと思うが、実際には、このアンケートを生かすというよりそれを処理していかないとならないことになる。生徒を指導していく立場である現場の意見をよく吸い上げてアンケート内容をもっと考慮した方がよいのではないか。</p> <p>5年に1度のアンケートだということも含めて迷っており、挙手はしにくい。</p>
委員	<p>多数決で決める問題ではないのではないか。学校として一番大事なのは、後のフォローをどうするかということだ。そういう点から考えて、このアンケートは「してはいけない」ではない。現場の意見を十分踏まえて項目をどうするか、ではないか。今後の男女共同参画を進めていく上において、学校現場と一体感を持って行わないとズレが生じてくる。その辺りを考えると、このDVのアンケートに対してもう少し考慮が必要ではないか。</p>
委員	<p>学校現場と一般市民との見方のズレはどうしてもあると思う。しかし、学校現場の中でいじめ、デートDV、セクハラ等については先生方の対処が本当に大変だと思うので、どうしてもよく考えてからと慎重になりがちだ。保護者や生徒たちが知っていることで、先生に相談しないことはたくさんあると思う。デートDVという言葉はマスコミで流されており、誰でも知ることができるので、さぬき市が田舎であってもその影響は受けざるを得ない、という認識は持つべきだ。</p>
会長	<p>挙手で決めてよいのか、という意見があったが。</p>
事務局	<p>学校現場にあまりにも負担をかけて実施する、というのは今後の男女共同参画を進めていく上で好ましくないと考えている。教職員用アンケートで、もう少し学校現場のデートDVの状況を吸い上げられるように項目を増やして、生徒用アンケートの方は、例えば言葉を知っているか、だけにするなど専門家の先生と相談しながら、学校現場に混乱をきたさないような形で実施するというのはどうか。</p>
委員	<p>その点に関して言えば、問6で“あなたは今までに交際したことがありますか”と</p>

	<p>ある。そこで“ある”という者に対して、デートDVに当たるようなことをしていますか、と聞くとかなり露骨な質問になる。そうではなく、子ども達の現状が分かるようなアンケート形式に変えれば、今の現状を推察することができる。“そのような交際の仕方が正しいと思いますか”という聞き方なら、子ども達がDVということを理解しているかどうか分かる。理解していない、ということであれば今後の教育・啓発が必要だということになる。このような形に変更した方がよいのではないか。問6-2の設問には違和感を感じる。</p>
会長	<p>皆さんからよい意見をたくさんいただいたので、それを取り入れた形で事務局に相談しながら、この件に関しては進めさせていただきたい。</p>
課長	<p>また、学校現場の方にも支障がないような形で了解をいただいた後に実施する、といった方向でやらせていただく。</p>
会長	<p>デートDVにかなりの時間を費やしたが、デートDVに対しさぬき市としてどう取り組むのか、というのは大きな問題だと思う。 その他に何か意見はあるか。</p>
委員	<p>質問だが、アンケート調査実施要領に市民の調査対象は「18歳以上75歳未満の市民」とある。私は現在80歳だ。75歳以上の市民で、施設に入っている人や認知症になっている人など様々だと思うが、男女共同参画を進めていく上において、一番大事な年齢ではないか。それをあえて75歳で区切ったということは、何か意図があるのかお伺いしたい。</p>
事務局	<p>今回のアンケートでは、今までの対象と比較ができるように、前回と同じ年齢設定にしている。上限枠を外した方がよいという御意見があれば調整したい。</p>
委員	<p>例えば、こういった形で文書に出すと75歳以上はどうなるのか、となる。80歳でも男女共同参画社会で生きている。80歳代は家事・育児は女性がする、という時代だ。そういう年齢層の人が家事・育児・炊事等いろんな点を共同でやっていかなくてはならない、という理解を持たないと家庭生活において行き違いが生じる。 できるならば、アンケートが返ってくるかどうかは別にして、対象を18歳以上上限なしということにしてはどうか。</p>
事務局	<p>了解した。</p>
会長	<p>他に事業所用アンケートなどもあったが、それらについて意見はあるか。設問内容を見ていると、大枠は前回と変わらず、という形か。</p>
事務局	<p>お見込みのとおりである。</p>
会長	<p>経過を追っていくものなので、毎回変わってしまうのはよくない。</p>
委員	<p>教職員用アンケートの中に“生徒に対して、「女らしく」「男らしく」という言い方をすることがありますか”とあるが、なぜ教職員用アンケートの中だけにこの質問があるのか。どちらかと言えば、家庭の中で言われることが多いのではないか。学校の中では人権同和教育の中でこういうことを言わなくなっている。それよりも市民用ア</p>

	ンケートの中に入れた方がよいのではないか。
会長	<p>市民用アンケートの問8の回答番号6に“男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる”とある。ここできちんと市民にも聞いている。</p> <p>学校では男女平等が浸透しているので、教職員用アンケートでは結果として出てこないかもしれない、ということか。</p>
委員	<p>そうだ。他にアンケートで聞きたいことがあれば、この項目を削って他のことを聞いた方がプラスになるのではないか。</p>
会長	<p>この質問は前回のアンケートでも聞いているものか。</p>
事務局	<p>前回、前々回と聞いている内容である。</p>
会長	<p>その結果を教えてほしい。全然出てきていないのであれば、なくてもよい質問だ。</p>
事務局	<p>調査結果を調べたい。</p>
委員	<p>教職員用アンケートに設問として入っていてもよい。市民用アンケートにも入っていることが分かればそれでよい。</p>
会長	<p>少し時間が押しているので、他に意見がなければ次の議題に移るがどうか。</p>
委員	<p>事業所用アンケートの中に、セクシュアル・ハラスメントについての項目はあるが、いわゆるパワハラについての項目がない。</p>
会長	<p>これに関しては、ハラスメントとして入れようとするとかなり項目を変えないといけないかもしれない。今、ここでアンケートとしてやるかどうかだ。</p> <p>セクハラについては毎回聞いているのか。</p>
事務局	<p>毎回聞いている。</p>
委員	<p>では、5年後の検討材料となりうるか。</p>
会長	<p>確かに社会的な事由としてはパワハラにシフトしてきている。</p> <p>今の御意見を5年後のアンケートに盛り込む方向で検討していただきたい。</p>
事務局	<p>了解した。</p>
会長	<p>アンケートについてはいい意見がたくさん出てきたので、事務局で整理をお願いしたい。</p>
課長	<p>了解した。実施要項などは、これらの御意見を反映した形をとりたいと思うが、実施までに再度協議会を設けることは難しいと思うので、最終の了解については、「会長一任」とさせていただきたいが、いかがか。</p>
委員	<p><異議なし></p>

会長	現場の声をきちんと聞く、ということで確認させていただきたい。皆さんの御意見をきちんと反映した形で修正させていただきたいと思う。 では、議題（５）「男女共同参画推進市民企画事業の実施（案）について」に移る。事務局から説明をお願いします。
事務局	< 議題（５）説明 > 平成２４年度市民企画事業募集要項、市民企画事業チラシ、提案書、報告書について説明（資料４ - 、 ）
会長	何か意見はあるか。
委員	昨年度は助成額が５万円で、８企画採用があり、合計で４０万円だったが、今年度は全体の上限が３０万円となっている。この１０万円の減額の理由を説明してもらいたい。
課長	４０万円から３０万円と１０万円減額した理由については、今年は５年に１回のプランアンケート調査を実施することが影響する。アンケート調査を実施するにあたって、一部の経費は特別枠として認めてもらっているが、全部がそういう訳にはいかない。アンケート調査の実施に約１００万円近くの経費がかかるので、通常経費の中で一部を削り、そちらに回す必要があった。そのため、今回は１０万円減になった。
会長	次年度にはまた変わるかもしれない、ということか。
課長	お見込みのとおりである。
委員	どうやって募集するのか。
事務局	募集の仕方は、市役所政策課及び支所の窓口書類を置くほか、同時にさぬき市ホームページで書類をダウンロードできるようにする。またＣＡＴＶで呼びかけるなどの広報を考えている。
会長	他に何か意見はあるか。無いようなので、原案どおり進める。 続いて、議題（６）「男女共同参画週間パネル展（案）について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	< 議題（６）説明 > 平成２４年度男女共同参画週間パネル展 展示物一覧（予定）について説明（資料５）
会長	これについて何か意見はあるか。
委員	展示予定物の中に平成２３年度市民企画事業の実績報告に係る展示物が入っていないが、出してもよいのか。
事務局	列挙漏れなので、ぜひとも提出してほしい。
会長	素晴らしい取組については、ぜひ御報告いただきたい。

課長	昨年までのパネル展の中で、委員の方にはボランティアとして色々とお協力いただき、この場を借りてお礼申し上げたい。今年のパネル展についても設営等可能な方は御協力をいただきたい。
会長	みなさんの御協力をよろしくお願ひしたい。他に意見がないようならば、原案のとおり進める。 では、最後の議題である(7)「今後の会議スケジュールについて」だが、先ほど議論したスケジュールでは、7月下旬頃に第2回目を開催したいと事務局から提案があったが、時期はこれでよいか。
委員	< 異議なし >
会長	異議なし、ということで予定通り7月下旬頃に開催させていただく。また事務局から追って案内する。 それでは、その他の意見や、事務局からの事務連絡はあるか。
事務局	< 事務連絡 >
会長	これで、今回の議題はすべて終了した。最後に総務部長に感想をお聞きしたい。
総務部長	まずは、本日お集まりいただいた皆様にお礼申し上げます。最初のさぬき市男女共同参画プランを策定してからもう8年が経ち、当時のことを思い出し懐かしく感じる。次期プランの策定に関しても委員のみなさんには多くの御意見を頂戴したい。
会長	以上で、第1回さぬき市男女共同参画推進協議会を閉会する。
< 閉 会 > (15 : 45)	